

## Graphical Abstract 作成要項

GAは、それを見ただけで研究全体の概要（対象・方法・結果）と結論を把握できるものとします。論文タイトルや著者名などの書誌情報の記載は不要ですが、図の内容を表す見出し（キャプション）の記載をお勧めします。講演等で論文が引用される時のスライド画面を想定して下さい。

GAはSNS等で公開されるため、社会的影響が大きいと判断されるような表現につきましては、編集事務局で適宜変更をご提案させていただきます。

提出されたGAは、縮小・拡大、トレース等の処理を行わず、作成いただいた図をそのまま掲載します。添付のパワーポイント雛形ファイルをご参照下さい。

- 1) パワーポイントで、ファイルサイズ15 cm（横）×10 cm（縦）として下さい。
- 2) カラーの図表を推奨します。
- 3) 文字は10 または 10.5 ポイントの遊ゴシック体
- 4) 図表中の文字は8 または9 ポイントの遊ゴシック体
- 5) 線は、1 ポイント以上の太さ
- 6) 写真等は、300 dpi 以上の画質
- 7) 色覚多様性に配慮し、色だけで区別せず、形状（マーカーや破線）や文字ラベルを併用したデザインを推奨します（色のシュミレーター（<https://asada.website/cvsimulator/j/>）などをご活用ください）。
- 7) イラストを用いる場合は、必ずオリジナルまたは著作権フリーのものを使用して下さい。  
※インターネット上でフリー素材として公開されているイラスト・写真であっても、著作権の許諾が不明または曖昧なものがある為、使用に際しては必ず利用規約を確認の上、条件を守って利用すること。  
フリー素材を利用された際はサイト名とURLをお知らせ下さい。

## Graphical Abstract 説明文 作成要領

SNS配信における説明文として、ワードファイルに論文タイトルと筆頭著者名、及び論文内容の説明文を全角100 文字以内（タイトル・著者名は含まない）で記載して下さい。

説明文作成例

説明文：○○○○に対して、○○を検討した。その結果、（説明文は全角100 文字以内）

<参考>

<https://www.facebook.com/JSPACI.kouhou/>

[https://x.com/JSPACI\\_kouhou](https://x.com/JSPACI_kouhou)

<https://www.instagram.com/jspaci/>



日本小児アレルギー学会   
@JSPACI\_kouhou

X.com

【NEW!】《日本小児アレルギー学会誌 第40巻  
1号 論文紹介①》

筆頭著者名：山元綾子

宮崎県全保育施設を対象に、食物アレルギー（FA）対応の実態調査を実施した。回答率は36%、FA有病率は3.4%（531/15459名）であった。97%の施設がFA児への給食対応を行っている一方で、アナフィラキシー既往児の受け入れ困難や、緊急時対応への課題が明らかとなった。

宮崎県内の全保育施設を対象とした食物アレルギー（FA）対応調査

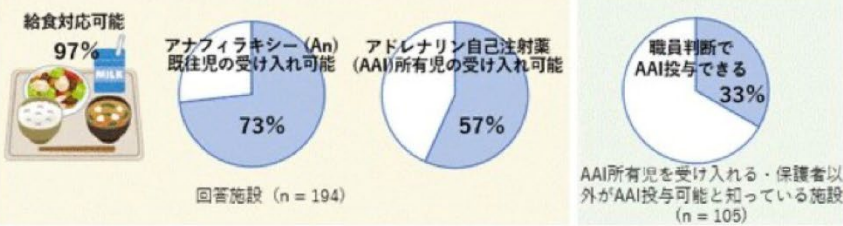
【背景・目的】

宮崎県内の保育施設のFA対応を明らかにする。

【方法】

宮崎県内の全保育施設を対象にFA対応に関するアンケート調査票を送付しWeb/FAXで回答を得た。

【結果】 回答率：36%（194/542施設） FA有病率：3.4%（531/15459名）

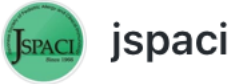


> An児を受け入れない理由：責任が持てない、怖い、対応がわからない。

【結論】 An既往児の受け入れや緊急時対応の改善が今後の課題である。

19:15 · 2026/03/23 · 897回表示





調査方法 広島県小児科医会会員258名を対象にWebアンケートを実施（回収率49.6%）  
対象 勤務医34%と開業医63%，日本アレルギー学会員：32%

### OFCの実態

**OFC実施状況**

施行群	希望群	施行しない
41%	22%	37%

**開業医の課題**  
個々の施設で独自の実施基準を設定してOFCを行っている。より安全なOFC情報が必要。

**勤務医の課題**  
自身の経験や患者の重症度に関わらず、OFCを実施せざるを得ない状況。

### 今後のOFCの在り方

**OFCに前向き群** (n=53)

リスク別に広く行う	集約して専門施設で行う	一般も全施設で行う	少なくとも総合病院では行う
64%	21%	15%	0%

**OFC希望群** (n=28)

リスク別に広く行う	集約して専門施設で行う	一般も全施設で行う	少なくとも総合病院では行う
71%	18%	11%	0%

**OFC非施行群** (n=47)

リスク別に広く行う	集約して専門施設で行う	一般も全施設で行う	少なくとも総合病院では行う
17%	81%	2%	0%

### 結語と今後の課題

広島県での食物経口負荷試験（OFC）の在り方について、OFCに前向き群（施行群、希望群）で多く（67%）はリスク別に広く行うことを望んでいた。患者の重症度別、医療者の勤務体制別の双方を層別化してOFCをしていくことが課題である。

♡ 17    💬    ↻    📌    📌

**jspaci【掲載論文紹介: 臨床研究】OFCに前向きな群（施行群・希望群）は全体の63%を占め、うち67%（施行群64%、希望群71%）がリスク別のOFC実施を希望する一方で、非施行群の多くは集約化を支持していた。各群の実情を踏まえ、まずは前向きな群の意向を反映し、患者の重症度、医療者の体制、双方を層別化したOFCの推進が課題である。**

<https://doi.org/10.3388/jspaci.39.416>  
(樋口公章,他.日小ア誌 2025;39:416-422)

2025年12月22日